

工学院大学研究報告執筆要領

[原稿執筆上の注意]

- ① 原稿は、本文、図（写真）、表ともに正・副各1部およびFDまたは、CD-Rで提出する。副はコピーでもよい。
- ② 原稿用紙は和文、英文ともA4版とする。
- ③ 本文は横書き、2段組を標準とする。
(文字数は25文字×45行×2段)
- ④ 第1ページには表題、著者名を和・英両文で書き、脚注として著者の所属学科(勤務先)と身分を書く。
- ⑤ 本文は第2ページから書く。

[表題]

- ① 論文表題は論文内容を適確にしめすものとする。
- ② 継続報告である場合は(第1報.)あるいは(その1.)のように書く。
- ③ 必要に応じて副題をつけることができる。

[英文要旨……Abstract]

- ① 和文の論文には別紙で英文要旨とその和訳をつける。
- ② 研究の本質的主張、新しい知見やそれから導かれた結論を書く(図表は引用しない)。
- ③ 長さは200語以内とし、2行送りのタイプ印書とする。
- ④ アブストラクトの後に、3～5語程度のキーワードを付記する。

[和文要旨]

- ① 英(独・仏)文の論文には、別紙で和文要旨をつける。
- ② 研究の本質的主張、新しい知見やそれから導かれた結論を書く(図表は引用しない)。
- ③ 長さは500字以内とする。

[用字・用文・体裁]

- ① 漢字は原則として常用漢字を用い、かなは現代かなづかいとする。
- ② 文章は口語体とする。
- ③ 論文の体裁は次の順序によるとよい。
 - a) まえがき
 - b) 本文
 - c) 結論
 - d) 付録、その他
 - e) 謝辞・文献ただし、以上は一つの例であり、著者はその内容に適した最も効果的な形式を選ぶことが望ましい。
- ④ 章、節、項などの番号は、次の例のようなポイント

システムによる。

3. 合金鋼

3.1. 構造用合金鋼

3.1.1. 構造用合金鋼の焼き入れ性

- ⑤ 大見出しは行の中央に書き、それ以下の小見出し(節または項)は行の左端より1こまあけて書く。これに文章を続けるときは2こまあける。

[記述]

- ① 本文は適当に区分して、見出し(章、節、項)をつける。
- ② 本章のくぎりには読点(,)あるいは句点(.)を用いる。なお、句読点には原稿用紙の1こまをあてる。
- ③ 普通用いられる外国語の術語、物質名はなるべく日本語(カタカナ)で書く。外国人名は欧字の活字体ではっきり書く。ただし、周知の術語になっているものはカタカナ書きとする。

〈例〉 ニュートン法則

- ④ 数量を示す場合および序数的表現の場合には、アラビア数字を使う。ただし、漢字などと結合して名称を表すものおよび概数を表す場合は漢字とする。

〈例〉 アラビア数字の場合：

10m, 図1, 表2, 昭和56年

漢字の場合：

三角形, 二サイクル機関, 数百例

そのほか、文中における数字の使いわけは次の例による。

可	不可
一つの	1つの
二, 三の例	2, 3の例
一例をあげると	1例をあげると

- ⑤ 数字記号、量記号および式の数字の書き方は次の例による。

可	不可
0.123	.123
1.23×10^4	$1.23 \cdot 10^4$

- ⑥ 単位・数値

- a) 単位は、SI単位(国際単位)を原則とする。
- b) SIでない単位および数値で示すときは、SIによる

単位および換算値を [] 書きで記入することが望ましい。

〈例〉 50kgf/cm² [4.90MPa]

あるいは [4.90×10⁶N/m²]

- c) SIでない単位を用いる場合、特に重量キログラムの表現は、SIのkg（質量）との混同をさけるため、kgfと書くことが望ましい。
- ⑦ 記号などにゴシック（太字）を用いる場合は、誤りをおこさないよう明確に書く。なお、本文中には記号を除き、原則としてゴシック体および筆記体（スクリプト）は使用しない。
- ⑧ 図表および数式などに用いる数字、ローマ字、ギリシャ文字は誤りをおこさないよう明確に書く。たとえば、次のごとき文字の区別は特に指示をする。
- 〈例〉 O(大), o(小), 0ゼロと○マル, nとη;
uとμ; a, αとd; K(大), k(小)とκ; e, lとI;
X(大), x(小), κカイと×カケ印; rとγガンマ;
vとνニュー; wとω; 1と7; 4, 6とb; △とΔ
デルタなど。

〔図（写真）および表〕

- ① 図（写真を含む）および表は、1図（表）ごとに別紙とし、本文中には原稿用紙の右欄外に挿入箇所を指示する。原稿にその分のあきはつくらない。
- また、別紙図および表の1枚ごとに所属、著者名を鉛筆で書きそえる。
- ② 図および表には、内容を的確に表する表題をつけ、番号は図1、図2、表1、Fig. 1、Table 2のようにする。
- ③ 図はすべてA4判とする。
- なお、著者から提出された原図は、そのまま製版に使用される。
- ④ 図表・写真は、原則としてモノクロとするが、色彩表現上カラー印刷でなければ判明しにくいものはこの限りでない。不鮮明な場合には再提出を求めることがある。
- ⑤ 写真の中に直接明文が入る場合は、上からトレーシングペーパーをはって文字を記入する。
- ⑥ コンピュータのプログラムリストなどは、そのまま製版するので鮮明に作成する。
- ⑦ 図および表の刷上りの大きさは、巾80mmを標準とし、原則として最大1ページとする。
- ⑧ 図中の文字の印刷時の大きさは、7ポイント(2.5mm)を標準とする。
- ⑨ 原図の大きさは刷上りの2倍程度が望ましい。
- ⑩ 縮尺は原則として1/2にするが、縮小率は委員会に一任とし、特別希望のある場合は指示する。

〔参考文献〕

- ① 文献は原稿の末尾にまとめる。原稿中の引用箇所には右肩に通し番号で^{1),2)}あるいは^{3)~4)}のように書く。
- ② 一般に公表されていない文献、たとえば簡易印刷（コピーしたものなど）の委員会報告や社内報告および私信などは、文献として引用しない。必要があれば脚注とする。
- ③ 引用する文献の著者名には敬称をつけない。
- ④ 文献の記載方法は次の形式による。
- a) 雑誌の場合
著者名, 論文名, 雑誌名, 巻数, 号数, ページ, (発行年)
- 中島康孝：“日本におけるトロンブ壁式ソーラーハウスの性能と簡易計算資料”, 太陽エネルギー, 20・2, p.6(1994)
- Shanker, A. and Vogel, J. H. : “Dynamic Modeling and Control of Packing Pressure in Injection Molding”, ASME Journal of Engineering Materials and Technology, Vol. 116, No. 6, p.244 (1994)
- b) 書籍の場合
著(編)者名, 書名, 巻数 (1巻のみの場合は不要), ページ (発行年), 発行所
- 西川精一：金属工学入門, 第三編非鉄金属材料その他, p.664(1985), アグネ技術センター。
- Ahrendt, W. R. : Automatic Feedback Control, p.31 (1980), McGraw-Hill
- c) webの場合
引用文献を、引用するにあたっては、未公開、未刊行物、パンフレット等の引用はしないこと。ホームページのURL引用の場合、著者名, webページ題名, 入手先 (URL), 最終アクセス年月日を記載する。
- 雑誌の場合
- 情報処理学会：“コンピュータ博物館設立の提言”, 情報処理学会 (オンライン), 入手先 〈<http://www.ipsj.or.jp/03somu/teigen/museum200702.html>〉 (最終年月日2007-02-05)
- 齊藤彬夫 “DME (ジメチルエーテル) 燃料普及のための提言”. 日本機械学会 (オンライン), 入手先 〈<http://www.jsme.or.jp/teigb01.html>〉 (最終年月日2003-02-24)
- 図書の場合
- 科学技術振興機構「科学技術情報流通技術基準－参考文献の書き方－」
〈<http://www.jst.go.jp/SIST/handbook/sist02/sisit02.htm>〉 (最終年月日2004年4月12日)

○Brow. james Dean(n.d)“Statistics Corner : Questions and Answers about Language Testing Statistics”
 (http://www.jalt.org/test/bro.7htm) (accessed 2003. 6. 21)

[刷上りページ数の計算]

原稿を印刷する場合、ほぼ次のようにして刷上りページが計算されるので参考にされたい。

- ① 1論文は、刷上り8ページ以内とするが、やむを得ず超過の場合は最小限にとどめること。なお、超過ページは投稿者の負担となる。また、8ページ以内には、表題や論文要旨および図表も含まれる。
- ② 図はA4判の用紙2枚で刷上り約1ページとなる。
 ただし、正確な図面の字数換算は、図面幅が標準の80mmの場合には刷上りの高さにより次のようになる（原則として図面の側面には本文文章を組まない）。

図面の刷上り高さ	換算字数
30mm	150字
40mm	200字
50mm	250字
60mm	300字

このほか、図の表題に対しては29字ごとに1行分（25字分）となる。

- ③ 句読点は1画（1こま）となる。
- ④ 英文は大文字が1画，小文字は2字で1画となる。
- ⑤ 数字は1桁が1画，2～3桁は2画，4桁は3画となる。
- ⑥ 小数点のコンマは0.5画となる。
- ⑦ 数式は次の例にしたがって行数を換算する。

〈例〉 $u_0 + u_1 = 1$ 1行

$$\sigma^2 = \frac{\sigma_1^2}{1 \times n} + \frac{\sigma_2^2 \times M^2}{n} \quad 2行$$

$$t = \frac{b - \beta}{\sqrt{\frac{s^2 \cdot x}{\sum(x - \bar{x})^2}}} \quad 3行$$

- ※ この要領の改廃は、研究報告編集委員会の議を経て行う。
- ※ この要領は、昭和57年3月15日より施行する。
 (付則)
- ※ この要領は、平成17年12月5日に改正し、施行する。
- ※ この要領は、平成19年12月17日に改正し、施行する。